

ダニエルの 3 人の友人シャドラク(ハナンヤ)、メシヤク(ミシャエル)、アベド・ネゴ(アザルヤ)は賢人となり、バビロン州の行政官となった頃、ネブカドネツアルは高さ 60 アンマ(27m)の金の像を建立し、「あらゆる楽器(笛と弦楽器)による音楽が聞こえたなら、金の像の前にひれ伏して拝むように、それを行わない者は燃えさかる炉に投げ込まれる」と命じました。ユダヤ人を妬むカルデア人により、3 人は命令を無視したと中傷を受けました。王は彼らを連れて来させ、像を拝むつもりがあるか否かを問いただし、拝まなければ炉に投げ込むと言い、「お前たちを私の手から救い出す神があるか(3:15)」と、「王権による神」の力を試そうとしました。彼らは「このお定めにつきまして、お答えする必要はございません。わたしたちのお仕える神は、その燃え盛る炉や王様の手からわたしたちを救うことができますし、必ず救ってくださいます。そうでなくとも、御承知ください。わたしたちは王様の神々に仕えることも、お建てになった金の像を拝むことも、決していたしません。(3:17)」と、たとえ救われなくても、イスラエルの信仰に立つと明言しました。



シャドラク、メシヤク、アベド・ネゴ S. Solomon

王は怒り、即座に炉を 7 倍も熱く燃やさせ、兵士たちに彼らを炉に投げ込ませました。そのため連行した兵士達が焼け死にました。しばらくして王は幻を見ました。だが、わたしには四人の者が火の中を自由に歩いているのが見える。そして何の害も受けていない。それに四人目の者は神の子のような姿をしている(3:25) と。

王は炉に近づき 3 人に声をかけますと、彼らは元の姿のまま炉から出てきました。王は 3 人が王命に背いて、罰を受けても、自らの神に信頼し、助けられた事実を見て、まことに人間をこのように救うことのできる神はほかにはいない(3:29) と感嘆し、3 人を高い位につけました。

再び、ネブカドネツアルは幻に悩まされました。それは 1 本の木が成長し、天に届くほどの高さになり、地の果てからも見えるようになったのに、聖なる見張りの天使の声によって、七つの時を過ごす間、切り株と根しか残らないようにさせられるという幻でした。この夢解きもダニエルが行い、王はしばらくの間、理性を失って野生の生き物のように過ごさざるを得ませんでした。



ダニエル ヘルニーニ

ペルシャ王クロスが各民族の宗教を認め、また捕囚も解きましたが、ダニエルは尊ばれ、宮廷に仕え続けることになりました。ダニエルは日に三度祈りを捧げていました。ダレイオス(治世 522-486BC)の時代にペルシャの大臣、総督らがダニエルを陥れようと、ダニエルの信仰を利用し「王以外の人間や神に願い事をする者はライオンの洞窟に投げ込む」という法律を作るよう王に求め、聞き入れられました。するとさっそくダニエルが捕らえられました。いったん法として定まった以上、ダニエルに刑が執行され、ライオンの洞窟に投げ込まれました。ダレイオスは救えなかったことを悔やみつつ、翌朝洞窟に行き、ダニエルの名を呼びました。ダニエルは「神様が天使を送って獅子の口を閉ざしてくださいましたので、わたしはなんの危害も受けませんでした。神様に対するわたしの無実が認められたのです。そして王様、あなたさまに対しても、背いたことはございません。(6:23)」と応えました。残虐な罰を伴う信仰の強要がペルシャ時代から始まり、ダニエル書、エステル記に記されています。自身の信仰に立ち、殉教を選んだ最初の信仰者達と言えるでしょう。